



Cisco IP Communicator の導入

この章では、Cisco IP Communicator の導入に必要な作業と推奨する作業の概略、および Cisco IP Communicator のデバイスを Cisco Unified CallManager のデータベースに追加する方法について説明します。

この章では、次のトピックについて取り上げます。

- [インストールの前提条件 \(P.2-2\)](#)
- [展開と設定のチェックリスト \(P.2-7\)](#)
- [Cisco Unified CallManager データベースへのデバイスの追加 \(P.2-14\)](#)
- [Cisco IP Communicator Administration Tool の実行 \(P.2-20\)](#)



ヒント

Cisco Unified CallManager に関するドキュメントは、Cisco Unified CallManager Administration Web アプリケーションの Help メニュー、または次の Web サイトでご利用いただけます。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/index.htm>

インストールの前提条件

Cisco IP Communicator アプリケーションをユーザ向けに導入する前に、次の項にある要件を確認してください。

- ネットワーク要件 (P.2-2)
- Cisco Unified CallManager 設定の要件 (P.2-3)
- クライアント PC の要件 (P.2-4)

ネットワーク要件

Cisco IP Communicator をネットワークのエンドポイントとして正しく動作させるためには、ご使用のネットワークが次の要件を満たす必要があります。

- Voice over IP (VoIP) が、シスコのルータおよびゲートウェイ上で設定されていること
- Cisco CallManager Release 3.3(3) SR 3 以上がネットワークにインストールされ、コール処理が可能な設定であること
- Cisco Unified Video Advantage バージョン 2.0 を使用して Cisco IP Communicator 2.0 と相互運用する場合は、Cisco Unified CallManager Release 4.1(3)SR1 以降がインストールされていること

TFTP サーバを自動検索するように Cisco IP Communicator を設定するには、TFTP サーバのアドレスを使用して設定された Cisco オプション 150 の DHCP をサポートする IP ネットワークも必要です。

Cisco Emergency Responder (CER) を使用する場合は、シスコのイーサネットスイッチ上で利用できるイーサネットポートが必要となります。詳細については、『Cisco Emergency Responder Administrator Guide』を参照してください。



(注)

Cisco IP Communicator を実行しているコンピュータが、Cisco Unified IP Phone の背面にある PC ポートに接続されている場合、Cisco IP Communicator は Cisco Emergency Responder (CER) で検出されません。この場合、Cisco IP Communicator の CDP (シスコ検出プロトコル) がブロックされ、CER では検出できません。検出を可能にするには、スイッチポートに直接接続します。

関連項目

- [Cisco IP Communicator と Cisco Unified CallManager との連携について \(P.1-13\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 設定の要件 \(P.2-3\)](#)
- [クライアント PC の要件 \(P.2-4\)](#)
- [展開と設定のチェックリスト \(P.2-7\)](#)

Cisco Unified CallManager 設定の要件

Cisco IP Communicator は、コール処理を行うために Cisco Unified CallManager が必要となります。Cisco IP Communicator をユーザ向けに導入する前に、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド*』または Cisco Unified CallManager Administration Web アプリケーションの文脈依存ヘルプを参照して、Cisco IP Communicator デバイスの管理やコールルーティングおよびコール処理が行われるように Cisco Unified CallManager が正しく設定されていることを確認します。

Cisco Unified CallManager に関する設定作業および展開作業の概要については、[P.2-7 の「展開と設定のチェックリスト」](#)を参照してください。



(注)

Cisco IP Communicator が Cisco Unified CallManager Administration の Phone Type ドロップダウンリストに表示されない場合は、次の URL にアクセスして、ご使用の Cisco Unified CallManager のバージョンに対応した最新のサポートパッチをインストールします。<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml>

関連項目

- [Cisco IP Communicator と Cisco Unified CallManager との連携について \(P.1-13\)](#)
- [ネットワーク要件 \(P.2-2\)](#)
- [クライアント PC の要件 \(P.2-4\)](#)

■ インストールの前提条件

クライアント PC の要件

Cisco IP Communicator のインストール先となるパーソナル コンピュータ (PC) は、次の項で説明する要件を満たしている必要があります。

- [プラットフォーム要件 \(P.2-4\)](#)
- [ハードウェア要件 \(P.2-5\)](#)

プラットフォーム要件

Cisco IP Communicator が起動する PC とオペレーティング システムには、ある一定の最小要件があります。最小要件の環境で構成すると、Cisco IP Communicator は、コールの際に PC の CPU の大部分を使用します。高速 CPU を搭載したり RAM を増設すると、アプリケーションの応答や起動が速くなります。詳細については、[表 2-1](#) と [表 2-2](#) を参照してください。



(注)

- Cisco IP Communicator は、Windows XP の「ユーザの簡易切り替え」機能をサポートしていません。
- Cisco IP Communicator は、最低限 128 Kbps のネットワーク接続が必要です。

表 2-1 Cisco IP Communicator のみの場合

要件	オペレーティング システム	最小 CPU	最小 RAM	画面解像度
最小構成	<ul style="list-style-type: none"> • Windows 2000 Professional Service Pack 3.0 以降 • Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降 	450 MHz Pentium III または同等品	128 MB	800 x 600
推奨構成	<ul style="list-style-type: none"> • Windows 2000 Professional Service Pack 3.0 以降 • Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降 	733 MHz Pentium III または同等品	192 MB	1,024 x 768

表 2-2 Cisco IP Communicator を Cisco VT Advantage と相互運用する場合

要件	オペレーティング システム	最小 CPU	最小 RAM	画面解像度
最小構成	<ul style="list-style-type: none"> Windows 2000 Professional Service Pack 4.0 以降 Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降 	2.5 GHz Pentium IV または同等品	256 MB	800 x 600
推奨構成	<ul style="list-style-type: none"> Windows 2000 Professional Service Pack 4.0 以降 Windows XP Professional Service Pack 1.0 以降 	2.8 GHz Pentium IV または同等品	512 MB	1,024 x 768

関連項目

- [ネットワーク要件 \(P.2-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 設定の要件 \(P.2-3\)](#)
- [ハードウェア要件 \(P.2-5\)](#)
- [USB オーディオデバイス用のホットフィックスのインストール \(P.2-6\)](#)

ハードウェア要件

Cisco IP Communicator は、次のクライアント PC 要件とその周辺機器が必要です。

- 最小 100 MB の空きディスク領域
- 非 ISA 全二重サウンドカード (内蔵型または PCI ベース)、または USB サウンドデバイス
- 10/100 メガビット イーサネット ネットワーク インターフェイス カード
- SVGA ビデオカード

関連項目

- [ネットワーク要件 \(P.2-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 設定の要件 \(P.2-3\)](#)
- [プラットフォーム要件 \(P.2-4\)](#)

USB オーディオ デバイス用のホットフィックスのインストール



注意

Cisco IP Communicator を USB オーディオ デバイスと併用する場合、システム クラッシュを避けるため、指定された Microsoft ホットフィックスのインストールが必要になることがあります。

Cisco IP Communicator を次の両方と併用する場合は、Microsoft Windows ホットフィックスをインストールする必要があります。

- Windows 2000 Service Pack 3 以降のリリース
- USB オーディオ デバイス

ロケールに対応したホットフィックスを入手するには、次の Web サイトから `cipc-Admin-ffr.1-1-1.zip` というファイルにアクセスします。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/ip-comm>

`W2KUSBHotfix.zip` ファイルを解凍し、適切なロケール フォルダにアクセスします。

英語版の Cisco IP Communicator Release 1.1(5) をインストールする場合は、`Windows2000-KB832339-x86-ENU.EXE` ファイルを実行します。

フランス語版の Cisco IP Communicator Release 1.1(5) をインストールする場合は、`Windows200-KB832339-x86-FRA.EXE` ファイルを実行します。

展開と設定のチェックリスト

表 2-3 は、Cisco IP Communicator の運用準備、展開、および設定に関わる管理作業の概略を示しています。

この表は、次の 3 つの項に分かれます。

- 情報の収集と Cisco Unified CallManager へのデバイスの追加
- Cisco Unified CallManager Administration での機能とオプションの設定
- Cisco IP Communicator アプリケーションの展開と設定

表中の作業には、Cisco IP Communicator 特有ではなく、Cisco Unified CallManager がサポートする電話機すべてに適用されるものがあります。必須の作業は注意してお読みください。



(注)

通常は、Cisco Unified CallManager Administration でオプションを設定してから Cisco IP Communicator を展開することをお勧めします。ユーザにとっては、初回の起動時から一貫して、機能が正しく設定された状態が確保できるからです。

■ 展開と設定のチェックリスト

表 2-3 展開準備と設定のチェックリスト

作業	注記	詳細の参照先
情報の収集と Cisco CallManager へのデバイスの追加		
<p>1. デバイスごとに次の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスに関連付ける Cisco Unified CallManager データベースのユーザ（複数可） • デバイスに割り当てる回線と電話番号 • デバイスに追加して設定する機能 • デバイス プール、コール検索スペースなどの Device Information フィールドのデータ（該当する場合） 	<p>オプションです。この情報を使用すると、Cisco Unified CallManager Administration Web アプリケーションでデバイスを設定できます。</p> <p>情報がデバイスに関連付けられ、利用できる場合は、Device Configuration ページの Device Information フィールドに、データが自動的に入力されます。デバイスごとにシステム設定値を変更する場合だけ、フィールドを編集します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 機能とサービスの設定 (P.5-1) • <i>Cisco Unified CallManager システム ガイド</i> • <i>Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド</i>

表 2-3 展開準備と設定のチェックリスト（続き）

作業	注記	詳細の参照先
<p>2. デバイスを Cisco Unified CallManager データベースに追加する方法を決定します（詳細については、右端列を参照してください）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動登録 • Cisco Unified CallManager Administration のみ • Bulk Administration Tool (BAT) のみ • BAT と TAPS (内線番号自動登録システム) 	<p>デバイスの追加は必須作業です。Cisco Unified CallManager へのデバイスの追加方法によって、電話番号がどのように割り当てられるか、およびネットワーク インターフェイスから MAC アドレスを取得する必要があるか、またはフリーフォーマットのデバイス名を使用する必要があるかが決まります。フリーフォーマットのデバイス名を使用する場合、ユーザは Cisco Unified CallManager の最新バージョン 5.0(1) に登録されている必要があります。</p> <p>デバイスを追加するために自動登録や TAPS を使用しない場合は、アプリケーションを展開する前に、デバイスを Cisco Unified CallManager に追加しておく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified CallManager データベースへのデバイスの追加 (P.2-14) • デバイスの追加に先立つデバイス名の収集 (P.2-18) • Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド • Bulk Administration Tool ユーザガイド
<p>3. 各クライアント PC のデバイス名を収集する方法を選択します。クライアント PC の該当するネットワーク インターフェイスの MAC アドレスを使用できます。また、Cisco Unified CallManager バージョン 5.0(1) 以降に接続する場合は、MAC アドレスの代わりにフリーフォーマットのデバイス名を使用することもできます。</p>	<p>自動登録や TAPS を使用する場合は、MAC アドレスの取得は不要です。</p>	<p>デバイスの追加に先立つデバイス名の収集 (P.2-18)</p>

■ 展開と設定のチェックリスト

表 2-3 展開準備と設定のチェックリスト（続き）

作業	注記	詳細の参照先
Cisco CallManager Administration における機能とオプションの設定		
<p>1. Cisco CallManager のテレフォニー機能（コール ウェイティング、コール転送、コール パーク、コール ピックアップなど）を設定して、ボイス メッセージ システムを確立します。</p>	<p>必要に応じて行います。拡張されたテレフォニー機能を提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco IP Communicator で利用できる電話機能 (P.5-2) • Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド • Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド
<p>2. ボタン テンプレートを変更します。</p>	<p>必要に応じて行います。ソフトキーを提供します。</p>	<p>電話ボタン テンプレートの変更 (P.5-21)</p>
<p>3. Cisco Unified IP Phone サービスを設定します。</p>	<p>推奨作業です。ユーザが株価や天気予報などの情報にアクセスできるようにします。これらの情報は、テキストとグラフィックスを使用した対話型のコンテンツとして電話機に表示されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • サービスのセットアップ (P.5-23) • Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド • Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド

表 2-3 展開準備と設定のチェックリスト（続き）

作業	注記	詳細の参照先
<p>4. Cisco IP Communicator Administration Tool を実行し、必要に応じて HTTP アクセスを有効にします。</p>	<p>Directory Wizard（クイック検索機能とダイヤリング規則機能の設定に使用）をインストールするには、Administration Tool を実行する必要があります。また、サポート対象外の VPN クライアントに依存しているユーザがネットワーク内に存在する場合は、HTTP アクセスを有効にするためのオプションを選択する必要があります（Administration Tool によって、IP リフレクタの Web ページが設定され、オーディオ IP の自動検出に関連した問題を解決できます）。HTTP アクセスを有効にすると、リモートユーザへの自動アップデートの速度を上げることもできます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco IP Communicator Administration Tool の実行 (P.2-20) • アプリケーションのアップデート (P.3-13) • オーディオ IP アドレスの自動検出に関する問題の解決 (P.4-13) • 社内ディレクトリおよび個人ディレクトリの設定 (P.5-10)
<p>5. ディレクトリを設定します。ディレクトリには、クイック検索機能とダイヤリング規則機能の設定ファイルがあります。</p>	<p>推奨作業です。クイック検索を使用すると、社内ディレクトリと個人ディレクトリの両方を検索できます。ダイヤリング規則は、ダイヤルプランを適用するために使用します。Cisco Unified CallManager ディレクトリと統合する場合は、Directory Wizard を使用して、設定ファイルを作成できます。まず、Administration Tool を実行します（前の手順を参照してください）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco IP Communicator Administration Tool の実行 (P.2-20) • 社内ディレクトリおよび個人ディレクトリの設定 (P.5-10) • Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド

■ 展開と設定のチェックリスト

表 2-3 展開準備と設定のチェックリスト（続き）

作業	注記	詳細の参照先
<p>6. Cisco Unified CallManager にユーザを追加します。</p>	<p>推奨作業です。ユーザをデバイス ID に関連付けて、ユーザ オプション Web ページへのアクセスを有効にします。また、ユーザとその電話番号が該当するクイック検索の結果に含まれるようにします (Cisco Unified CallManager ディレクトリと統合した場合)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified CallManager へのユーザの追加 (P.5-24) • Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド
Cisco IP Communicator アプリケーションの展開と設定		
<p>1. Cisco IP Communicator の展開に使用する方法を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • インストーラ パッケージを共有場所に置いて、管理者かユーザが実行できるようにする • ソフトウェア配布ツールを使用して、企業全体を対象にインストールを実行する • 個々のコンピュータに直接展開する 	<p>1 番目の方法を使用してソフトウェアを展開するためには、ユーザがその PC の管理者特権を持っている必要があります。</p> <p>Microsoft Windows のインストーラパッケージを使用する場合は、展開中に値を指定するためのコマンドライン オプションを提供できます。詳細については、右列のトピックを参照してください。</p>	<p>アプリケーションの展開 (P.3-4)</p>
<p>2. Web サイトをセットアップするなどの方法を使用して、アプリケーションのインストーラと設定、ユーザ マニュアルの入手、およびユーザ オプション Web ページへのアクセスに関する情報をユーザに提供します。</p>	<p>推奨作業です。この情報をユーザに提供することによって、ユーザが製品をより有効に活用できるようになります。</p>	<p>Web サイトを使用したユーザへの情報提供 (P.A-1)</p>

表 2-3 展開準備と設定のチェックリスト（続き）

作業	注記	詳細の参照先
3. 各クライアント PC にオーディオ デバイスをインストールするか、インストールするための情報をユーザに提供します。	管理者またはユーザは、USB ヘッドセットや USB ハンドセットのような、ドライバに依存するオーディオ デバイスをインストールする必要があります。この作業は、アプリケーションがクライアント PC にインストールされる前に実行しておくことをお勧めします。	<ul style="list-style-type: none"> • ヘッドセットおよび他のオーディオ デバイスのインストール (P.3-2) • オーディオ デバイスの選択と調整 (P.4-6)
4. 必要に応じて、インストールされたアプリケーションを設定します(またはユーザが設定できるようにします)。	設定作業の中には、アプリケーションの初回の起動時まで完了させておく必要があるものもあります。	アプリケーションの設定 (P.4-1)

関連項目

- [Cisco Unified CallManager データベースへのデバイスの追加 \(P.2-14\)](#)
- [アプリケーションの展開 \(P.3-4\)](#)
- [アプリケーションのアップデート \(P.3-13\)](#)
- [インストール後の設定作業の概要 \(P.4-2\)](#)

Cisco Unified CallManager データベースへのデバイスの追加

Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールする前に、デバイスを Cisco Unified CallManager データベースに追加する方法を決めておく必要があります。

次の項で説明している方法のいずれかを選択してください。

- [自動登録によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [自動登録と TAPS によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Administration によるデバイスの追加 \(P.2-17\)](#)
- [BAT によるデバイスの追加 \(P.2-18\)](#)

表 2-4 は、デバイスを Cisco Unified CallManager データベースに追加するためのオプションの概要を示しています。これらのオプションの詳細については、上記のトピックを参照してください。

表 2-4 デバイスを Cisco Unified CallManager に追加するためのオプションの概要

デバイスの追加方法	デバイス名の要否	注記
自動登録	なし	電話番号の自動割り当てが可能です。
TAPS (内線番号自動登録システム) での自動登録	なし	自動登録と Bulk Administration Tool (BAT) が必要です。Cisco IP Communicator アプリケーションと Cisco Unified CallManager Administration の情報が更新されます。
Cisco Unified CallManager Administration の使用	あり	デバイスが個別に追加されます。Cisco Unified CallManager にデバイスを追加してから、クライアント PC にアプリケーションをインストールする必要があります。
BAT の使用	あり	デバイスの一括登録が可能です。Cisco Unified CallManager にデバイスを追加してから、クライアント PC にアプリケーションをインストールする必要があります。

自動登録によるデバイスの追加

この方法は、クライアント PC からデバイス名を収集しておかなくても使用できます。

自動登録が有効になっていると、Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールして実行すると、Cisco Unified CallManager からすぐに電話番号が提供されます。自動登録の実行中、Cisco Unified CallManager では、電話番号がその順序に従って、次々にデバイスに割り当てられます。

自動登録を使用すると、デバイスを Cisco Unified CallManager データベースにすばやく送信できます。その後、Cisco Unified CallManager を使用して、電話番号などの設定を変更できます。また、自動登録したデバイスを別の場所へ移動して、異なるデバイス プールに割り当てることもできます。この操作によるデバイスの電話番号への影響はありません。

自動登録の有効化と設定については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

関連項目

- [自動登録と TAPS によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Administration によるデバイスの追加 \(P.2-17\)](#)
- [BAT によるデバイスの追加 \(P.2-18\)](#)
- [展開と設定のチェックリスト \(P.2-7\)](#)

自動登録と TAPS によるデバイスの追加

この方法は、クライアント PC から MAC アドレスを収集しておかなくても使用できます。

TAPS (内線番号自動登録システム) は、Bulk Administration Tool (BAT) と連携して動作し、ダミーのデバイス名を使用して Cisco Unified CallManager データベースに追加されたデバイスを更新します。TAPS を使用して、MAC アドレスを更新し、Cisco IP Communicator デバイス向けに事前定義された設定をダウンロードします。

TAPS を実装するには、管理者またはユーザが TAPS 電話番号をダイヤルして、ボイス プロンプトの指示に従います。プロセスが完了すると、Cisco IP Communicator デバイスに電話番号やその他の設定がダウンロードされます。デバイスは、Cisco Unified CallManager Administration で、正しいデバイス名によって更新されます。

TAPS が正しく動作するためには、Cisco Unified CallManager Administration (System > Cisco Unified CallManager) で自動登録を有効にしておく必要があります。

BAT と TAPS の詳細については、『*Bulk Administration Tool ユーザガイド*』を参照してください。

Cisco CallManager 3.3.3 に付属する TAPS バージョンの使用

Cisco CallManager 3.3.3 に付属する TAPS バージョンを使用して、ハードウェアの Cisco IP Phone をすでに持っているユーザ用に Cisco IP Communicator デバイスをデータベースに追加し、さらに Cisco IP Communicator デバイスでそのハードウェアの電話機と同じ電話番号を使用する場合は、次の手順を実行する必要があります。

1. 異なる外部電話マスクを使用して、Cisco IP Communicator を追加します。
2. TAPS の登録が完了したら、もとの外部電話マスクに戻します。

関連項目

- [自動登録によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Administration によるデバイスの追加 \(P.2-17\)](#)
- [BAT によるデバイスの追加 \(P.2-18\)](#)
- [展開と設定のチェックリスト \(P.2-7\)](#)

Cisco Unified CallManager Administration によるデバイスの追加

この方法では、Cisco Unified CallManager Administration Web ページを使用して、Cisco Unified CallManager データベースにデバイスを個別に追加します。

この方法を使用するには、Cisco IP Communicator アプリケーションのインストール先となるクライアントごとに、適切なデバイス名を収集しておく必要があります。クライアント PC のネットワーク インターフェイスの MAC アドレスを使用できます。また、Cisco Unified CallManager 5.0(1) 以降に接続する場合は、MAC アドレスの代わりにフリーフォーマットのデバイス名を使用することもできます。詳細については、P.2-18 の「デバイスの追加に先立つデバイス名の収集」を参照してください。

デバイス名の収集が完了したら、Cisco Unified CallManager Administration で **Device > Add a New Device** を選択します。Cisco Unified CallManager の詳細な操作手順や概念的な説明については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified CallManager システムガイド』を参照してください。



ヒント

Cisco Unified CallManager で文脈依存ヘルプを表示するにはメイン メニューバーから **Help > For this page** を選択します。

関連項目

- [自動登録によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [自動登録と TAPS によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [BAT によるデバイスの追加 \(P.2-18\)](#)
- [展開と設定のチェックリスト \(P.2-7\)](#)

BAT によるデバイスの追加

Cisco Bulk Administration Tool (BAT) は、Cisco Unified CallManager のプラグインアプリケーションです。BAT を使用すると、システム管理者は、多数のデバイス (Cisco IP Phone や Cisco IP Communicator など) に対して、登録などの処理を一括して実行することができます。

(TAPS と連携せずに) BAT のみを使用してデバイスを追加するには、Cisco IP Communicator アプリケーションのインストール先となるクライアントごとに、適切なデバイス名を収集しておく必要があります。詳細については、[P.2-18](#) の「[デバイスの追加に先立つデバイス名の収集](#)」を参照してください。

BAT の詳細な使用方法については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』および『*Bulk Administration Tool ユーザガイド*』を参照してください。

関連項目

- [自動登録によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [自動登録と TAPS によるデバイスの追加 \(P.2-15\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Administration によるデバイスの追加 \(P.2-17\)](#)
- [展開と設定のチェックリスト \(P.2-7\)](#)

デバイスの追加に先立つデバイス名の収集

デバイスをデータベースに追加する際、Cisco Unified CallManager Administration を使用して個別に行う場合、または (TAPS と連携せずに) BAT のみを使用して一括して行う場合は、あらかじめデバイス名を収集しておく必要があります。

自動登録のみ、または BAT と TAPS との連携によってデバイスを追加する場合は、あらかじめデバイス名を収集しておく必要はありません。

デバイス名を収集するには 2 つの方法があります。1 つ目の方法では、クライアント PC のネットワーク インターフェイスのうち、いずれか 1 つの MAC アドレスを使用します。2 つ目の方法では、フリーフォーマットのデバイス名を使用します。フリーフォーマットのデバイス名を使用するには、Cisco Unified CallManager バージョン 5.0(1) 以降に接続する必要があります。MAC アドレスを使用するときは、Cisco IP Communicator アプリケーションのインストール先となるクライアント PC のネットワーク インターフェイスから取得する必要があります。

クライアント PC に複数のネットワーク インターフェイスが存在する場合は、固定接続される可能性が最も高いインターフェイス、またはアクティブでない場合でも常に有効なインターフェイスの MAC アドレスを使用します。たとえば、ワイヤレス カード、ドッキング ステーション、PC カードなどではなく、内蔵型のイーサネット カードを使用します。

この基準は、初回の起動時に、アプリケーションに関連付けるネットワーク インターフェイスを（必要に応じて）選択する場合にも適用できます。起動時のインターフェイスの選択については、[P.4-11](#) の「[デバイス名の選択](#)」を参照してください。フリーフォーマットのデバイス名を使用するには、Cisco Unified CallManager バージョン 5.0(1) 以降に接続する必要があります。デバイス名は、Cisco Unified CallManager クラスタ全体で一意であれば、任意のものを選択できます。文字列の最大文字数は 15 文字です。また、文字列に使用できる文字は ASCII 文字だけに限定されています。

関連項目

- [展開と設定のチェックリスト \(P.2-7\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Administration によるデバイスの追加 \(P.2-17\)](#)
- [BAT によるデバイスの追加 \(P.2-18\)](#)

Cisco IP Communicator Administration Tool の実行

導入準備の一環として、次の操作の実行を強くお勧めします。

- Cisco Unified CallManager のパブリッシャ上で Cisco IP Communicator Administration Tool を実行する。
- Administration Tool で HTTP アクセスを有効にするためのオプションを選択する。サポート対象外の VPN クライアントに依存しているユーザがネットワーク内に存在する場合、この設定は必須です (P.4-14 の「サポートされている ソフトウェア VPN クライアント」を参照してください)。

Administration Tool は、Cisco IP Communicator ソフトウェア ダウンロードと同じ Web サイトから取得できます。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/ip-comm>

表 2-5 は、Administration Tool を実行したときの利点をまとめたものです。



ヒント

- 通常、Cisco Unified CallManager のパブリッシャは、電話機ロードのインストール先となる TFTP サーバです。パブリッシャ上で Administration Tool を実行すると、Directory Wizard で設定値を自動検出することができます (詳細については、P.5-13 の「Directory Wizard を使用してクイック検索を設定する方法」を参照してください)。
- Cisco IP Communicator Administration Tool を実行した際に、HTTP オプションを有効にしていなかった場合は、再び Administration Tool を実行して、この機能を有効にするためのオプションを選択できます。ただし、一度選択した HTTP アクセスを無効にするためには、Administration Tool をアンインストールしてから再インストールする必要があります。

表 2-5 Cisco IP Communicator Administration Tool の使用方法

Administration Tool の使用目的	使用方法	注記
サーバ上に Directory Wizard をインストールする	Administration Tool を Cisco Unified CallManager のパブリッシャ上で実行します。	<p>Administration Tool によって、<TFTPPath>Communicator フォルダに DirectoryWizard.exe と LdapDirectories.README.txt がインストールされます。</p> <p>Cisco Unified CallManager のパブリッシャ上で Administration Tool を実行すると、Directory Wizard で設定値を自動検出することができます。詳細については、P.5-13 の「Directory Wizard を使用してクイック検索を設定する方法」を参照してください。</p> <p>クイック検索とダイヤリング規則を設定するには、Directory Wizard を使用します。P.5-10 の「社内ディレクトリおよび個人ディレクトリの設定」を参照してください。</p>

表 2-5 Cisco IP Communicator Administration Tool の使用方法 (続き)

Administration Tool の使用目的	使用方法	注記
HTTP アクセスを有効にする	Administration Tool を実行して、[Enable HTTP Access] オプションを選択します。	<p>HTTP アクセスを有効にすることによって、次のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> リモート ユーザへの自動アップデートの速度を上げることができます。 <p>ただし、自動アップデートを使用するには、ユーザがその PC の管理者特権を持っている必要があります。P.3-13 の「アプリケーションのアップデート」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> サポート対象外の VPN クライアントに依存しているユーザについて、オーディオ IP アドレスの自動検出に関連した問題を解決できます。 <p>ただし、この目的で HTTP を有効にする場合は、Cisco Unified CallManager Administration の getIP.asp Web ページの URL も指定する必要があります。P.4-13 の「オーディオ IP アドレスの自動検出に関する問題の解決」を参照してください。</p>
Directory Wizard や Administration Tool ReadMe ファイルにアクセスする	Administration Tool を実行して、該当するチェックボックスをオンにします。	Directory Wizard と ReadMe ファイルは、Cisco IP Communicator のプログラム グループから起動することもできます。

関連項目

- 展開と設定のチェックリスト (P.2-7)
- インストール後の設定作業の概要 (P.4-2)
- 機能とサービスの設定 (P.5-1)